

InnoTrans 2016 レポート

村松 勝 Masaru Muramatsu

キーワード InnoTrans, Berlin, 国際鉄道技術見本市, 架線検測, VI, VCB, 海外電鉄

概要



InnoTrans会場（Messe Sud駅方面から）

InnoTrans（イノトランス）は2年に一度、ドイツ・ベルリンで開催される世界最大の国際鉄道技術見本市である。新興国を中心とした鉄道新線計画は依然として活発で、世界の鉄道市場は拡大傾向を維持している。このような背景に支えられ、InnoTransの開催規模は拡大傾向にある。

当社では、2012年に初出展して以来、小さいながらも単独ブースを構えて特長製品をPRしてきた。3度目の出展となる今回のInnoTransは、2016年9月20日（火）から23日（金）にかけて開催された。

1 まえがき

1996年に第1回が開催されて以来、11回目となるInnoTrans 2016は、世界60か国から2955の企業が出展し、来場者数は約145,000人（主催者からの速報値）を記録した。出展社数及び来場者数は過去最高を更新し、特に来場者は前回の133,595人から1万人以上も増加している。

展示ホールに隣接する屋外展示場では、3500mに及ぶ貨物の引き込み線を利用して実物の車両が展示され、初お披露目の車両を含め、質と量の両面から見本市会場に華を添えた。第1図に屋外展示場の様子を示す。本稿では、InnoTrans 2016に出展した当社ブースの概要を紹介する。



第1図 屋外展示場の様子

屋内だけでも広大な敷地を誇っているが、屋外展示場に並ぶ新型車両の数々はまさに展示会の華であると言える。

2 当社ブース概要

第2図に当社ブースの外観を示す。当社は



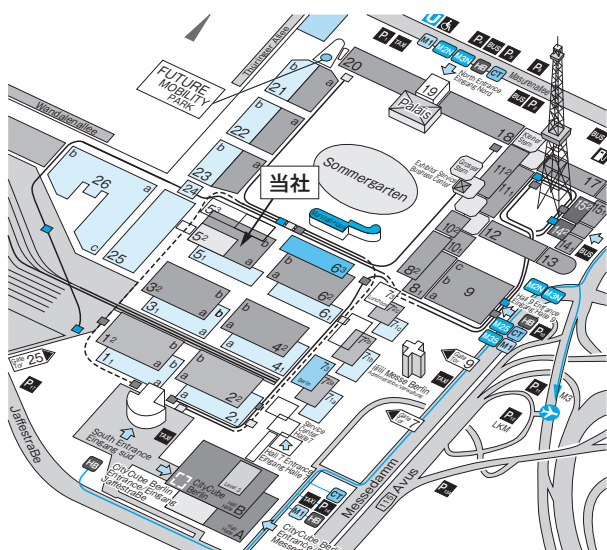
第2図 当社ブース外観

両サイドに大形モニタを配置し、ブース外側にはパネルとVI実機及び架線検測装置のデモ機を配置した。



第4図 ミーティングスペース

2台のテーブルを用意し、それぞれにモニタを設置した。



第3図 当社ブース位置

HALL5.2 Stand413に36m²の広さを確保した。

HALL5.2 Stand413に36m²のブースを確保し、バックヤードを含む製品展示スペース・ミーティングスペース・受付で構成した。第3図に当社ブース位置を、第4図にミーティングスペースを示す。

展示スペースには50型モニタを2台配置し、製品紹介と会社紹介を常時再生とした。壁面には3枚のパネルを展示し、当社の特長製品である架線検測装置と真空インタラプタ（VI）の紹介に加えて、海外での豊富なプロジェクトの実績についてPRした。VIは実機を用意し、架線検測装置ではデモ用のPCを操作できる状態で展示した。



第5図 屋根上装置

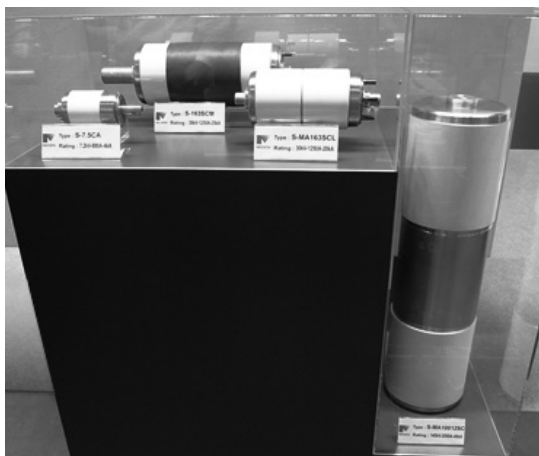
架線検測装置は、屋根上装置と車載装置と解析装置から構成される。

2.1 架線検測装置

架線検測装置は、架線関連設備の診断と管理を目的とした検測装置である。架線設備は、鉄道設備の中で動的に変化する電気設備で、検測データはそれを示す数値である。その結果は車両の走行条件や環境によって左右されるため、現場の状態と対応させて確認する必要がある。当社の架線検測装置は画像処理をベースとし、以下の特長を持つ。

- (1) 現場調査の前に撮影画像で確認が可能
- (2) コンパクト省電力システムで営業車搭載が可能
- (3) お客様の要求に応える多彩な検測項目

今回のInnoTransでは、「検測から診断へ」というコンセプトで、これまでの実績と新機能のPRを実施した。第5図に屋根上装置の例を示す。



第6図 VIの実機展示の様子

様々な用途に応じたVIを製品化している。

2.2 VI

地球環境に配慮し、SF₆ガスを使用しない省資源・省エネルギーの環境低負荷型真空遮断器（VCB）を実現するVIの実機を展示した。第6図に展示した実機の様子を示す。

当社のVIは1965年に研究を開始し、5年後の1970年に24kVまでのVCB用を、その後、世界に先駆けて特別高圧の領域における製品を開発し、1975年には168kVクラスのがいし形VCB（2点切り）を開発した世界に誇る特長製品である。7.2kVの真空電磁接触器クラスから世界最高の145kV用超高压VCB用VIまで、様々な用途に応じたVIを製品化している。パネルでは特長と構造の説明に加えて電鉄分野での適用事例として、1点切りVCBである世界最高電圧クラスのがいし形VCB、エコタンク形VCB（乾燥空気絶縁）、電鉄車両搭載用のVCBなどを紹介した。

3 日独鉄道ビジネスフォーラムの開催

InnoTransの開催に先立ち、在ドイツ日本大使館主催の「日独鉄道ビジネスフォーラム」が開催された。日独の鉄道事業者とサプライヤが調達制度やこれまでの実績などをプレゼンテーションし、相互の交流とビジネスの促進を図った（日本及びドイツから192名が出席）。第7図に日独鉄道ビジネスフォーラムの様子を示す。



第7図 日独鉄道ビジネスフォーラムの様子

日本大使館主催で、Opening greetingに続いて鉄道事業者及びサプライヤのプレゼンを行った。終了後、Networkingで相互の交流を深めた。

4 むすび

世界の鉄道市場が拡大傾向を維持している状況で、鉄道関係の事業者が一同に会する場として世界最大の国際技術見本市“InnoTrans”の存在意義は大きい。そのような場に、当社の特長製品を単独で出展できたことは、それ自身が当社のプレゼンスを高めていると言える。このことは普段から取り引きのある各国のお客様やサプライヤと現地で各種ミーティングを行うことでも実感できる。

また、長い時間をかけた展示会の準備と現地での接客は、人財育成の観点からも極めて有効な機会であることは言うまでもない。次回の展示会をにらみながら、世界に発信できる特長製品に更なる磨きをかけることで、重要な社会インフラの一つである電鉄分野の発展に、国内外で貢献していく。次回は2018年の開催となる。

・本論文に記載されている会社名・製品名などは、それぞれの会社の商標又は登録商標である。

《執筆者紹介》



村松 勝
Masaru Muramatsu

電鉄システム事業部技術部
電鉄分野向けICT製品のエンジニアリング業務に従事